

# 童

2019年9月3日

蓮の花がひっそりとののはな文庫前で開く中、大地新学期スタート。何かを感じさせる神秘的な始まりです。片道ひまわりロード（休み中、片側のひまわりが大きくなりすぎ、道路に倒れてきて通行不能、整理してあげたら、すっきりひまわりロードになり、いつのまにか2年前に植えた片側の樹木が大きくなっていました）・見た目にはわからない手入れされた自然農畑、そして、美しく草刈りや草抜きされた大地の庭や森林。凜とした環境が子供たちを迎えてくれました。

子供たちは、夏休みの数々の体験の中で、一回りも二回りも大きくなって大地にきてくれました。草木が、6月から8月にかけて、雨やお日様などの環境により一番伸びるように、子どもたちも自然の育ち、自然の環境の中にいたら、同じような伸びるのは当たり前でしょうね。同じ生態系に住む同じ動植物ですから。テレビやゲームや不自然な人工的な暮らしを余儀されている子どもたちも多い中、自然環境が身近な中で暮らせる子どもたちは幸せですね。

新学期スタートは、ジャガイモ、すいか、流しそうめん、盛り上がりしました。子どもたちの登園を待ったジャガイモ掘り。昨年の初めての自然農開始ジャガイモに比べ、今年は子どももスタッフも、5倍以上手をかけ時間をかけて育てただけに、その収穫は凄いものでした。改めて手間暇かける大切さを知りました。大人気のフライドポテトや蒸かし芋で連日大盛況。また、実家や近所でも今年はスイカが大豊作なので、スロープで汗をかいて走った後は、連日すいかタイム。更に、大雨の中でも、当然の如くまだまだ夏の風物詩流しそうめん盛り上がりしていました。そんなぎっちゃんちの休み明けの一週間でした。

大地の自然農の畑からとれる、スイカ、キュウリ、トマト、なすなどは、収穫量や大きさなど、大量生産、企画揃い等、一般的な経済農業で流通する尺度とは全く異なるものですが、その味は味わった事の無いおいしさです。これから、サツマイモ、枝豆、そばなども収穫出来る時期がやってきます。子どもたちが手をかけた作物が、子どもたちの身体や心に入っていくのが楽しみです。



## 【子どものために 子どもと共に、子ども自ら】

登山ではなく遠足、皆さんお疲れ様でした。身近な里山である鼻見城址。町の田園風景が見渡せる場所。レストランサンクゼールから見渡せる光景とはひと味違うものです。久しぶりに出かけました。最近、大地近隣の里山（天神さんや田んぼ畑森林）が魅力的になり、鼻見城址には行かなくなりましたが、以前はよく出かけていた場所です。大人も、マウンテンバイクを楽しんでいた時期もあり、廃道を整備して、実は他に3本の登山道を大地が復活させた場所です。

以前は、飯綱町の小学校1,2年生も遠足にきていた場所ですが、熊が時々出ると言うことで敬遠されるようになってしまいましたが、賑わいながら楽しんで登る大地の遠足なら大丈夫です。

未満児も小学生も時間も距離もハンディなしで歩く遠足。これも冷静に考えれば凄い事です。でも、兄弟が8人も10人もいた時代では皆当たり前として、同じものを食べ同じ遊びに入り同じ時間を共有していたものです。今では、年齢や興味、そして子どもの要求に合わせてその子特別プランでアドバンテージやハンディを持たせる事が多くなってきていますが、これは、子どもにとっても親にとっても実は楽な事であり、逆に大地のようにハンディなしで異年齢を共に同空間同環境を共にする方が、実は非常に努力工夫が必要であり、大人がその器用性を高めていくいわば親力が高まっていく事に繋がります。身体の大きさ、体力、精神力、集中力などは、年齢により異なります。子どもは「小さな大人」ではないのです。そのあらゆる違いを、一人一人に合わせて個々に対応するのではなく（そうすると、その人数だけ親やシッターさんが必要となる）、環境設定や兄弟や子ども同士の力や親が同時に2,3人の子どもに対応する努力、鍛錬、学びを通じて、**マネージメント能力（親力）**を備えていくことが大切です。そうでなければ、子どもは親がついていなければ、親が設定し見守っていなければ何もできない子どもになってしまいます。

その意味で、全員が身近な山ではありますが、一般道、農道、登山道、森林、藪、荒地、自然な森、原っぱなどを、傷だらけになりながら歩き通した家族は素晴らしかったです。

大地ひまわりロードの世界からスタートし、サンクゼール、民家、畑、田んぼの田園風景を楽しみながら、つらくなる登山道。初めて休憩した用水の場所（これが帰りに遠足一番の盛り上がり発展するとは！！）。たきぎを集めながら登る大人。つらくなり抱っこ姿や泣き声。それぞれの当たり前姿を見ながら、頂上に着けば皆ノーサイド！！それぞれグループの素敵な昼食作りが始まりました。様々なやり方、楽しみ方、作り方、食べ方、そして、昼食後の遊び方、過ごし方がありました。何もないシンプルな世界で2時間、あっという間でした。そして、わざわざ道があるのにそれを無視して歩く大地名物「**直線コースを進む**」途中直線を完全無視して用水を泳ぎはしゃぎながら水遊びして帰りながらも、きっちりと時間通りジャングルの直線を歩き、サンクゼール直線を歩き、仕上げはバッチリ！！

こんな一日を振り返り「子どものために、子どもと共に 子ども自ら」の視点で整理してみました。全てが必要な事であり、優劣の尺度ではありませんのでご安心を。

- ①**子どものために（大人主導のおもいやり 間違えば 大人の自己満足 受動的）**  
子どもの道案内（引率）・抱っこしてあげる・リュックを持ってあげる・大人が鍋や炊事道具やたきぎを持って行く・昼食の準備調理・火起こし・片付け・ロープ張り・ロープ投げ・ロープ引っ張りの一部・吊り上げられる子ども昼食を待つ子ども
- ②**子どもと共に（大人環境設定 大人も楽しい 中庸 間違えば大人がいないと遊べない）**  
子どもとのたきぎ拾いたきぎ集め・子どもの荷物運び・子どもの調理一部昼食作り参加・スイカ割り遊び  
子どもとのロープ掛けロープ投げ・子どもを揚げるためにロープを引っ張る・我が子を引き揚げる・他人の子を引き揚げる・用水を歩く・水遊びをする・子どもたちと水の掛け合い・吊り上げられる子ども
- ③**子ども自ら（最初は大人環境設定で、あとは見守る 主体的）**  
火を燃やす・火に棒を入れて遊ぶ・マシュマロをあぶる・調理をする・藪や道なき道を先に進んでいく・水に入る泳ぐ・びしょびしょになる

どれもが日常の生活の要素であり、暮らしの仕組みとなって営まれている事です。その中で、一つ確実なことは、①よりも② 更に②よりも③にいくほど、子どもたちの身体的精神的な喜び高揚感が高まっていくことです。年齢が高まっていけば、充足感満足感に置き換えられます。私たちは、この法則を自覚し、この法則を適材適所に生かしながら子どもとの日常生活・遊び・暮らしを楽しんでいくことが素晴らしいと思います。

ここで忘れてはならないことは、見ているだけだったり（見守るとは違う）、お任せする、だったり、子どもにだけやらせようだったり、他人に遊んでもらう等のことがないよう、常に自分が子どもとの世界に共存することを意識的に自覚し、身体的精神的にも子どもたちの世界に参加していることであると思っています。心身共に、ハードな楽しさ！！